沖縄県健康産業協議会

くすいなたん

沖縄では「ごちそうさま」のかわりに「クスイナタン」（薬になりました）といいます。美味しくて元気になりましたという意味が込められています。

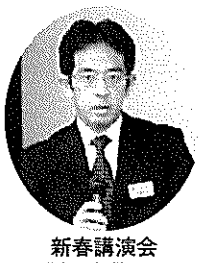
発行：2015年春号

発行所
沖縄県健康産業協議会
〒901-0152　沖縄県那覇市字小禄1831番地1
沖縄産業支援センター4階　TEL.098-859-6237
公益財団法人　沖縄県産業振興公社内

沖縄県健康産業協議会会報

平成二十七年 新春講演会および新年会を開催

一月二十三日（金）に沖縄産業支援センターにおいて、新春講演会が開催された。講演に先立ち当協議会の会長である株式会社ポイントピュールの大道社長より「今春より、いよいよ"健康に良いとされる食品の機能性を表示し販売できる制度"が実施される。歴史的に食経験が充実している沖縄の素材で機能性や効果があり、エビデンスがある素材が更に注目されると考えている。その後押しとなるのが健康長寿であり、業界としても一日も早い復活を願い取り組んで行きたい」と挨拶があった。


新春講演会
講師 糸数課長

講演会は「健康長寿おきなわ復活に向けた取り組み」をテーマに"沖縄の現状"と"健康長寿復活に向けたロードマップ"などについて、沖縄県健康医療部健康長寿課課長　糸数 公（いとかず　とおる）氏が講演した。都道府県別生命表で平均寿命が、男性三十位、女性三位と順位を下げている（三三〇ショックとも呼ばれている）なかでも働き盛り世代（四十代～五十代）の死亡率が高いこともあり、企業の管理職や地域活動の担い手を失うなどの問題も抱えている。働き盛りの人のケアは重要。健康長寿を取り戻すためには、「健診を受診する」「肥満を解消する」「適正飲酒を理解する」ことや、生活習慣病の対策がカギになる。実際に体験したエピソードのほか、沖縄県では二〇四〇年の健康長寿おきなわ復活に向けて取り組んでいる。健康産業に関わる業界の皆さまの企業でも社内の健康づくりに取り組んで頂きたいとの内容に多くの参加者が耳を傾けた。講演後の質疑応答では「沖縄の健康長寿についてグラフで見ると七十五歳以上の人は長寿であると言えるのではなか」「伝統的な食生活がよいのではないか」などの意見などもあった。

また、講演会と合わせて沖縄県健康産業協議会新年会が開催され、沖縄県関係者なども参加し、協議会会員と交流した。

新春講演会の様子

機能性表示食品 安全性評価の現状

有限会社 開発屋でいきたん
代表取締役　照屋 隆司

機能性表示食品制度がスタートしました。すでに一〇〇以上の届出は申請されていると言われますが、消費者庁に正式に受理されたのは五月二十二日公表分で二十六商品です。申請件数と受理された件数に開きがあることの理由について消費者庁は明確にしておりませんが、事情に詳しい数人の専門家の話によると、商品表示が新しい食品表示基準に則っていなかったり、記載事項の不備などがあるようです。さらに、機能性の科学的根拠を説明する文献レビューの結論と、届出された機能性表示の内容がきっちりと対応していないケースが見られるとの事です。

機能性表示食品の届出様式では機能性の科学的根拠を説明する前に、安全性について説明する必要があります。したがって、自社商品の機能性の科学的根拠に関する調査を行う前に、安全性について説明できるかどうかを検討する必要があります。機能性表示食品の届出で求められる安全性は喫食経験（食経験）または文献情報で十分に評価できるか否か？がまず問われます。そして喫食経験や文献情報で安全性を十分に評価できない場合は、製品での安全性試験の実施が求められます。

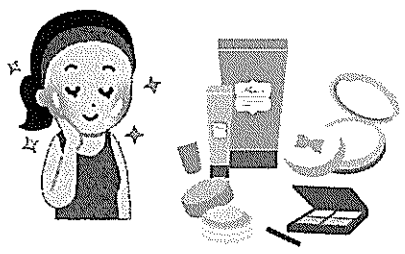
これまでに届出を受理された食品のうち、喫食経験で安全性を評価されているものは、自社の販売実績を中心にあげて説明しています。例えば、あるサプリメントでは日本広域で七年以上二十万個以上の販売実績があり、その間機能性成分に由来する有害事象はみられなかったという説名をしています。一方、喫食経験で安全性を十分に評価できない食品については、実際の安全性試験実施によって安全性の説明がされています。その場合、動物実験による急性・亜急性毒性や遺伝毒性試験、人間による過剰摂取試験、長期摂取試験の結果が記載されています。

沖縄のコスメについて

沖縄は、地域資源を活用しての商品作りが盛んな地域です。昔からの知恵で防腐効果が分かっていた月桃、シャンプーとして使用されていたクチャ、皮膚に炎症があった時に使われていたゴーヤー風呂等、他にも食経験や体験からなる素材があります。それらを調べてみると北海道の約二倍はあると言われている紫外線から身を守る為の抗酸化成分が多く含まれており、最近の表現としては（スーパーフード）と言われていています。沖縄には三十種類以上の化粧品素材があります。限られた地域にしてはかなりの数の素材ではないでしょうか。

課題としては、沖縄産素材のほとんどが県外メーカーに特許が押さえられていて自由に使えない事です。商品化する時は最初に素材の特許、商標等を調べてから進めた方がいいと思います。最近 特に海外から、沖縄コスメについての問い合わせが増えています。沖縄の綺麗な海のイメージや、食べられている物・健康食品などの素材を使った商品が注目され、ニーズも高まっています。

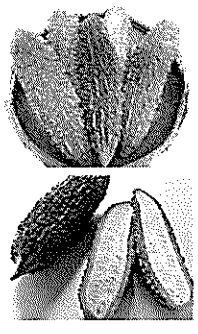
㈱ポイントピュール
代表取締役　大道　敦



沖縄の素材紹介 ゴーヤー

にがうり（和名：ツルレイシ）

学名：*Momordica charantia var. L.*



燦々とふりそそぐ太陽の光をいっぱいに浴びた沖縄のゴーヤーは、力強くて美しい！原産国は、インド及びインドネシア地方！琉球王朝時代、西暦1500年前後に、貿易の盛んであった中国を渡って沖縄に入って来たと伝えられています。以来、約500年間、沖縄の代表的な野菜として食文化を支えています。

ゴーヤーには、ビタミンC（加熱しても壊れにくい）が豊富に含まれており、健康と美容によい野菜として親しまれています。また、昔から苦味成分が 夏場の食欲不振や夏バテ防止になると言われています。

ゴーヤー茶、青汁、サプリメント等の健康食品を始め、化粧品、菓子、漬物等にゴーヤーを使用した商品が、県内の顧客を始め多くの国内外の観光客に愛飲、愛食されています。

ゴーヤーには、モモルデシンやチャランチンという生理活性物質も含まれており、今後、県内の大学や研究機関と各メーカー連携が強化され、ゴーヤーの果肉部分のみならず、根、茎、葉などの研究を進め、更に"進化した商品創り"や"沖縄を元気に盛り上げるパワーフードとしてのブランド展開"に期待が寄せられています。

「沖縄機能性表示推進モデル事業」

協議会含む四機関で実施

沖縄県では、健康食品市場において、品質と機能性に優れた沖縄ブランドの健康食品の販路拡大を図ることを目的として、「沖縄機能性食品推進モデル事業」を実施。機能性表示食品制度の導入に伴い、沖縄の素材の機能性の評価も求められることもあり、ブランド力強化のための短期的・長期的戦略を検討する。

業界一体となって取り組む推進モデルの取りまとめ及び、県内外に向けた効果的なプロモーションに取り組む。単年度事業で、（公財）沖縄県産業振興公社、㈱沖縄TLO、（一社）トロピカルテクノプラス、沖縄県健康産業協議会の四機関（TV）での業務実施となる。当協議会 事務局への機能性表示食品についての問合わせが増えているため、勉強会の開催やエビデンス機能性表示研究会の開催及び情報提供を今後も進めていきたい。

機能性表示食品表示制度の導入をきっかけに、シークワーサー部会から「既に品質管理自主基準を設けている。シークワーサーに含まれる成分の 機能性が評価され、表示することができれば業界・地域経済の活性化になる。」との声も寄せられている。

健康博覧会二〇十五へ合同出展

東京ビッグサイトで三月十一日から三日間"国内最大級の健康産業BtoB商談展"健康博覧会二〇十五が開催。県内企業八社が沖縄ブースとして合同出展した。ブースを訪れるバイヤーも沖縄の素材について興味はある様子。既に沖縄の素材を扱っている話や効果効能についての質問があった。「パッケージが改善されれば取引したい」「原料を供給してもらいたい」などの要望や、「毎年出展している姿を見てきたので今年こそ契約をしたい」とブースを訪れる姿も見受けられた。海外からのバイヤーも年々増えている。三日間で二七八件の商談のうち、成約十六件（成約見込み四十二件）代理店申込み六件の成果があった。

沖縄ブースの様子